

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 医学部	3
2. 医学系研究科	5

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 医学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 看護学科では、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、令和元年度入学生から新カリキュラムを導入した。新カリキュラムの一般教養科目では、医学科との合同授業やゼミナール形式の科目を拡充するとともに、学生の興味・関心に応じた柔軟な教養科目の履修が可能となるよう科目選択の枠を広げて教育課程を再編した。専門科目では、地域・在宅看護学関連の授業科目の重点的な配置を行うとともに、地域医療教育に特化した選択制の「地域医療実践力育成コース」を設けた。
- 医学部では、滋賀医科大学卒業生が滋賀県の医療に貢献する人材として成長するように、滋賀医科大学独自の学生支援制度として、“地域「里親」学生支援事業”を実施している。
- 「出前授業」：滋賀県内の小学校・中学校・高校からの依頼により教員が出向いて医学・看護学に関する授業を実施する。第3期中期目標期間中では年間約10～15校に対し実施している。
- 医学・看護学教育センターにおいて選定された教授及び准教授を対象に、他大学の教育学部の教員による授業評価を実施している。対象教員には評価結果をフィードバックし、教員からの評価に対する意見や改善案等をまとめ、評価結果とともに学内用ウェブサイトで公開している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 2. 医学系研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 7 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

修士課程看護学専攻では他大学に先んじて令和元年度から、「特定看護師」の育成を支援するため、修士課程看護学専攻高度実践コースに特定行為領域を開設している。EBM（根拠に基づく医療）の社会的重要性が高まっていることを受けて、医療統計学の専任教員を配置し生物統計学を教授するとともに、疫学及び臨床研究の論文指導を統計面から支援している。

#### 〔優れた点〕

○ EBM（根拠に基づく医療）の社会的重要性が高まっていることを受けて、医療統計学の専任教員を配置し、「医療統計学」「臨床試験」「疫学研究」の授業により臨床研究・疫学研究に必須の生物統計学を教授するとともに、疫学及び臨床研究の論文指導を統計面から支援している。特に、博士課程教育リーディングプログラムにおいては、複数の学生を受け持ち、論文作成をテーマ設定から手厚くサポートしている。また、平成 30 年度には電子カルテやレセプトデータ等の医療系ビッグデータの解析体制を整え、令和元年度には滋賀県と連携して地域の健康寿命の解析を新たに実施した。これらは、授業や論文指導を通して学生に提供された。前述の解析データは平成 28 年度から令和元年度にかけて、滋賀医科大学学生の博士論文や学会論文発表等に 5 件活用され、論文の先進性や精度の向上に貢献した。

また、滋賀大学とのクロスアポイントメントにより、当教員が滋賀大学のデータサイエンス学部にも出向し、大学間連携事業（データサイエンスに係る最先端の学部教育プログラム等の開発）及びデータサイエンス学部の教育・研究指導に従事した。

○ 平成 26 年度に採択された文部科学省「グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGE プログラム）や平成 29 年度に採択された「EDGE-NEXT 人材育成のための共創エコシステムの形成」プログラムを活用し、グローバルな視点でのアイデアの実用化に向けた研修をシリコンバレーやオタワ大学にて実施した。研修には毎年度 5～6 名が参加し、参加者は、日本でのプログラムでは体験できない海外という環境で、特にオタワ大学（カナダ）では本格的な試作品作製を体験し、自身のビジネスアイデアをブラッシュアップする機会を得た。この結果、研修参加者が「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」における



「滋賀テックグランプリ」にて企業賞を受賞する等の成果を挙げた。

**〔特色ある点〕**

- 修士課程看護学専攻では他大学に先んじて 令和元年度から、「特定看護師」の育成を支援するため、看護学科と附属病院看護師特定行為研修センターとが連携して、修士課程看護学専攻高度実践コースに特定行為領域を開設した。さらに、令和元年度中に、カリキュラムの整備を行い、令和2年度入学者から修士の学位取得と合わせて受講できる特定行為区分を10区分から21区分に増やすことを決定した。より多様な特定行為区分の受講を可能とすることで、履修生増加に向けて取り組んだ。
- 大学院生を含む若手研究者が研究成果を発表できる機会として、「滋賀医科大学シンポジウム」及び「SUMS グランド・ラウンド」を毎年開催している。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔優れた点〕**

- 大学院生が筆頭筆者である英文の論文数は、平成28年から令和元年の4年間で、32件から42件へ増加した。

**〔特色ある点〕**

- 就職先へのアンケート調査では、「向上心がある」かどうか「あてはまる」と回答した割合は、平成30年度には100%、令和元年度には94.7%であり、平成28年度及び平成29年度実施の調査に比べ、約50ポイント増加した。